

Y 2008 No.45



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。

新刊紹介

○歩き遍路

(海竜社刊)

辰濃 和男



著者辰濃さんは元朝日新聞記者。75年から88年、「天声人語」執筆者として知られる名文家。この「歩き遍路」は2006年の刊行。

あとがきに、へんろ道を歩いていると、「土を踏む」と

いう言葉と、「風に祈る」という二つの言葉が心に響くようになった、そしてこの道は「祈りの空間」であると述べられている。要した日数は、三年かけて、59日間。

この本の妙味は、各章の序に名僧の言葉が挙げられているところにある。例えば、③ 満足行一足を満たそう、満足しよう。＝柳本明善。香川 ③ 静穏＝私たちの祖先は、風の音、波の騒ぎ、あるいは木の青葉や花の美しさ、そういったものから何かの声を聞きとってきました——松長有慶。へんろ路でめぐりあった善男善女、それぞれの姿が描きだされていて、読むへんろ行もいいものだと言われる。



新刊紹介

○人間教育の昭和史

「山びこ」「山芋」

(朝日新聞社刊)

佐藤 国男



雪がコンコンと降る。

人間は

その下で暮らしているのです。

——敏雄

『山びこ学校』の巻頭にあらこの詩は、炭焼き仕事の手

伝いで、ろくに学校に行けなかった少年の作。作家の杉浦明平は『三好達治の「太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪降りつむ・・・」の「雪」と似ているけれども、あれよりずっと生活の悲しみ、かげというようなものが翳をとおしている』と激賞。「こんな良い作文集がいままでわが国で出たことがありますか」と序文に坪田譲治のすいせんの言葉。

無着先生の教育は一躍全国教育界のみならず広く世評を呼んだ。ときに1951年(昭26)児童詩集『山芋』は、戦時中、寒川道夫の教え子大関松三郎の作品を編んだ一冊。寒川は綴方教育で戦中、治安維持法違反で検挙されたこともあった。大分の教師汚職とはずいぶん筋ちがいがい。こんな教育昭和史を語る人、今幾人でしょうか。

受贈図書紹介 33

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。
あしからずご了承下さい。

井手運送50周年記念誌 井手 郁夫 小郡市
震潮記 田井 晴代 徳島県
仙厓百話 石村 善右 福岡市
親父のつぶやき 徳永 龍 熊本県

お役所での体験談 田仲 正造
句碑を訪ねて六百里 赤羽 正業 千葉県
裏切りの協奏曲 宗方 慶司 福岡県
共に帰国の朝を 齊藤 博
シベリアヤポンスキーサルダート... 井手辺正則 愛知県
鎮魂記 白菊連想 菊池 康夫 東京都



○ 縄文風花記

岩本末治 (石風社刊)

序文に、京都大学名誉教授上田正昭先生は、農耕の始まり、弥生時代から、小学6年生の歴史学習は取り扱われているが、旧石器時代、縄文時代の人々の暮らしは無視してよろしいものか。日本列島の文化の原風景がここには横たわっていると強調されている。

著者の岩本さんの経歴は、京都の印刷会社で働かれているようだが、生いたちは中国山地の村らしく、この物語同様、縄文紀のような生活を少年時代には送ったと、あとがきに記されている。縄文時代のかぐわしい風の中に生きた家族が描かれた作品。

○ 風の牧場

多賀浪砂 (石風社刊)

牧場に飼われたサモイドの仔犬ルールを中心にしたものがたり。

著者は、純真女子短大にお勤めであった助教授。

まえがきに「私が小学生だった頃、近所にはいろいろな種類の犬が飼われていました。柴犬、秋田犬、肥後犬、シェパード、コリー。そのような思い出が浮かんできて、犬のお話が出来上がりました。」と、犬を飼われた思い出からの発想。

多賀さんは、この犬のものがたりから、いくつかの教訓をくみとってほしいと書き添えられているが、子供はどう読みとるであろうか。

○ 定年ブルドッグ

やめがわ はやせ 八女川 瀬 (彷徨社刊)

著者略歴、昭和8年、八女郡広川町の生まれ。昭和31年、中央大学中退。ながく自動車研究所に勤務とある。

「定年ブルドッグ」「雨の形見」「輪郭だけの妻」「天まで上げれ」4短編収録の作品集。

あとがきらしい「薬味」を添えて——を読むと、奥さんを亡くされての独り身ぐらしの生活を寸描されている。

“いこいの館”第三集会室での頭の体操、ここでの囲碁の打ち比べが何よりの楽しみ。

夢にでてくる妻の言葉は「私のアサガオ可愛がってね。いつまでも・・・咲かせてね・・・」

○ ティンサ

ビルマ元首相・バ・モオ家の光と影

根本百合子 (石風社刊)

根本さんは17年間、中国残留孤児帰国者と家族の日本語教育にたずさわられた方である。

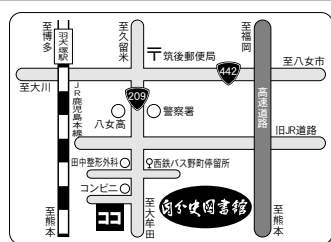
日本の戦中軍政下に、首相の座につかざるを得なかったバ・モオ博士一家の数奇な運命、いかに苦難の道をたどらざるを得なかったかを、長女ティンサからの聞きとりにより、ビルマの不条理な政情を背景に書きとめられた一冊である。それにしても日本軍はビルマまでも戦場に追いこみ、悪戦苦闘、常識では考えられないインパール作戦など、多大な犠牲を払った愚挙と思い返される。

編集掌記

▼福岡の高名なエッセー誌『紫水』の同人富沢義敬さん、夏の日に「自分史図書館」来訪。事務局東さんのでない案内に感謝との便り。こうした営為に敬意を表しますとの嬉しく有難い言葉。▼この号は、はからずも福岡の出版社「石風社」からの出版書寄贈多く、したがって、三冊の紹介となった。昨今ではローカル出版物のほうに興味深く、貴重な内容が多いように思われる。各市町村の図書館の購入計画も一考を要するのではないか。▼この号で「人間教育の昭和史『山びこ』『山芋』」をとりあげたが、その折、無着成恭編「山びこ学校」の原本をとりだしてみた。1951年、昭和では26年。マッカーサー退陣「老兵は死なず、たゞ消え去るのみ」とセリフをのこし占

自分史図書館

入館無料
開館 午前9時～午後5時
閲覧希望の方は予め電話でご確認下さい。
貸し出しはしていません。



〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan

領軍最高司令官罷免、「上海帰りのリル」が巷に流行の戦後まもない時代。定価160円。青銅社発行。43名の生徒名が記されている。勘定してみるとこの生徒さんら七十三歳になられているはず。
(自分史図書館長 椎窓猛)